京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

（5 年計画の 4 年目）

1. 研究課題

20 世紀中国史の資料的復元

Reviving the History of Twentieth-Century China by Reviewing the Source Materials

2. 研究代表者氏名

石川禎浩

ISHIKAWA Yoshihiro

3. 研究期間

2019 年 4 月-2024 年 3 月(4 年目)

4. 研究目的

中国における近現代史の叙述は、領域によって程度の差はあるものの、イデオロギー型革命政党によって統制され、方向付けられてきた。かれらは党派ごとに自己中心的、あるいは独善的解釈による歴史像を持つだけでなく、そうした歴史像を支えるべく、歴史資料の収集やその編纂、刊行にも力を入れてきた。ただし、そのさいに資料はしばしばその歴史像に符合するよう編纂（改竄を含む）されてきたため、政治史にせよ、思想史にせよ、あるいは文学史にせよ、既存の公刊史料に基づく限り、研究者はどうしてもその枠組みから脱却できないという隘路に行き着いてしまう。それゆえ、近代の中国がどのようなものであったのかを知るためには、まず基本的な史料を編纂状態以前にもどすという気の遠くなる作業から始めなければならない。本研究班は、20 世紀の中国の政治、運動、文学、芸術といった領域で、それぞれ根本資料と見なされてきた基本文献に関して、その生成や編纂、刊行の経過を洗い直したうえで本来の姿にもどし、それによって中国 20 世紀史全般を復元し、再構築することを目指す。

The history of 20th century China, whether good or bad, has been written under the dictates of the political parties which have an ideological mindset of the revolutionary. They not only had their own self-centered narratives of the modern history, but also collected and compiled historical materials concerned to reinforce their narratives. The problem is, however, that they often made the falsifications when they edited those source materials into the official documents. Because of this, we should understand how their narratives were formed along with the compilation of the historical materials in the century. In this research seminar, we shall investigate and restore various source documents which has been considered to be the

basic materials in each area of modern China, such as politics, revolutionary movement, literature, art and so on. This type of research, which makes full use of original sources scattered around the world to revive the primary documents of twentieth-century China, would open the way for us to have a refreshing understanding of how the modern Chinese history really was.

5. 本年度の研究実施状況

隔週金曜午後に研究班例会を開催することを中心に活動を進めた。班員は 62 名、毎回の研究班例会の平均出席者数は 29 名であった。昨年に引き続き新型コロナウィルスの感染拡大のため、ハイフレックス方式による開催となったが、幸い平常時と同様の規模・質を維持することができた。特にオンライン参加が可能であることをいかして、東京・中華人民共和国で活躍する複数の研究者による積極的な参加を得ることができた。年度内の例会開催回数は 16 回を数え、毎回事前にレジュメを班員に配布し、またコメンテーターをつけて、専門的見地から議論を深められるよう工夫した。

本年度は四年度目にあたり、研究班の課題である「資料的復元」に対する班員の理解は十分に深まった。例会における議論も、各班員の専門知識と班員間の対話・協働にもとづいた、濃密なものとなった。研究班の成果をまとめる論文集の公刊に向けて、十分な作業を進めることができた。

6. 本年度の研究実施内容

2022-04-15 20 世紀中国史の資料的復元 ラテン化新文字運動史の資料的復元：倪海曙による編纂作業を手がかりとして 発表者 都留俊太郎 京都大学人文科学研究所　コメンテーター 温秋穎 京都大学教育学研究科

2022-04-22 20 世紀中国史の資料的復元 開明書店版『曹禺選集』（1951 年）収録『雷雨』の諸問題：人民共和国建国直後知識人の精神形態 発表者 瀬戸宏 摂南大学外国語学部 コメンテーター 比護遥 京都大学教育学研究科

2022-05-20 20 世紀中国史の資料的復元 戦前日本の中国語学習誌：中国語教育、中国語界を読み解く基礎資料として― 発表者 温秋穎 京都大学教育学研究科　コメンテーター 小野寺史郎 京都大学人間・環境学研究科

2022-06-03 20 世紀中国史の資料的復元 「中国人民は立ち上がった」に関する若干の考察：「人民」定義の変遷とともに 発表者 和田英男 近畿大学　コメンテーター 中原綾 東京大学人文社会系研究科

2022-06-17 20 世紀中国史の資料的復元 広東農民運動期中国共産党の党内通信と文書の性格：海陸豊及び東江を中心として 発表者 蒲豊彦 京都橘大学　国際英語学部　コメンテーター 江田憲治 京都大学人間・環境学研究科

2022-07-08 20 世紀中国史の資料的復元 山東出兵前後における無産政党 発表者 福家崇洋

京都大学人文科学研究所　コメンテーター 武藤秀太郎 新潟大学教育研究院
2022-09-30 20 世紀中国史の資料的復元 盛政権初期における国民政府の統合戦略
：新疆の振興計画と回民補習班の実態をめぐる考察 発表者 程天徳 京都大学人間・環境学研究科　コメンテーター 王柯 神戸大学国際文化学研究科
2022-10-14 20 世紀中国史の資料的復元 近代中国における植物学資料の整理と出版
：『植物名実図考』を中心に 発表者 瞿艶丹 京都大学人文科学研究所　コメンテーター 真柳誠 茨城大学人文科学研究科
2022-10-28 20 世紀中国史の資料的復元 戦後日本華僑史の基礎資料としての
『華僑報』と『自由新聞』：その利用と課題 発表者 岡野翔太 大阪大学レーザー科学研究所　コメンテーター 陳來幸 ノートルダム清心女子大学文学部
2022-11-11 20 世紀中国史の資料的復元 第一次世界大戦の歴史的意味：梁啓超らの「欧戦」認識を中心として 発表者 高柳信夫 学習院大学外国語教育研究センター　コメンテーター 森川裕貫 関西学院大学文学部
2022-11-25 20 世紀中国史の資料的復元 馮自由と民国初年の臨時稽勲局
：その革命史著述への影響 発表者 土肥歩 同志社大学文学部　コメンテーター 高嶋航 京都大学文学研究科
2022-12-09 20 世紀中国史の資料的復元 ”郷土文学”を読みたがったのは誰か：文芸誌の書評欄から探る 発表者 津守陽 京都大学人間・環境学研究科　コメンテーター 鈴木将久 東京大学人文社会系研究科
2023-01-20 20 世紀中国史の資料的復元 宣伝の霧：1944 年中外記者西北参観団の若干の史実に関する考察 発表者 丁麗瓊 京都大学人文科学研究所　コメンテーター 鄭成 兵庫県立大・環境人間学研究科
2023-02-03 20 世紀中国史の資料的復元 1950 年代中国農村の離婚問題：離婚裁判史料からみる女性と社会 発表者 鄭浩瀾 慶應義塾大学総合政策学部　コメンテーター 手代木さづき 京都大学文学研究科
2023-02-17 20 世紀中国史の資料的復元 現代中国政治の転換と農村幹部：河北省邢台県の事例 発表者 田中仁 大阪大学法学研究科　コメンテーター 都留俊太郎 京都大学人文科学研究所
2023-03-17 20 世紀中国史の資料的復元 羅振玉の古器物学に関する再検討：日本の学者との関係をめぐって 発表者 荘帆 京都大学人文科学研究所　コメンテーター 呉孟晋 京都大学人文科学研究所

7. 共同研究会に関連した公表実績
①人文研アカデミー「近現代中国研究の最前線」（9/8, 15, 22, 29、全四回）ーー班員四名が講演を担当。毎回オンライン参加者約 100 名、会場参加者約 25 名を集めた。
②楊瑞松氏学術講演会（11/11）ーー近代中国の思想史研究で大きな成果をあげてきた楊瑞

松氏の来日に合わせて企画。
③中共百年史書評会（3/5）ーー班長である石川の近著『中国共産党、その百年』について合評会を開催した。
④「アカデミズムとジャーナリズムのあいだ——安田峰俊氏と語る」（3/30）ーー現代中国にかんするノンフィクション作品で知られる安田氏を招聘し、ワークショップを開催した。

8. 研究班員
所内
石川禎浩、瞿艶丹、呉孟晋、申晴、荘帆、都留俊太郎、丁麗瓊、福家崇洋、村上衛、楊奎松、李皓、谷雪妮、貴志俊彦
学内
江田憲治(京都大学人間・環境学研究科)、太田出(京都大学人間・環境学研究科)、小野寺史郎(京都大学人間・環境学研究科)、温秋穎(京都大学教育学研究科)、関藝蕾(京都大学文学研究科)、蔡佑佳(京都大学文学研究科)、施顕昱(京都大学文学研究科)、徐璐(京都大学文学研究科)、張子康(京都大学文学研究科)、津守陽(京都大学人間・環境学研究科)、程天徳(京都大学人間・環境学研究科)、手代木さづき(京都大学文学研究科)、中島大知(京都大学文学研究科)、羅亜妮(京都大学文学研究科)、秋田朝美(京都大学経済学研究科)、高嶋航(京都大学文学研究科)、比護遥(京都大学教育学研究科)、楊睦(京都大学人間・環境学研究科)、李羲成(京都大学人間・環境学研究科)、
学外
岡野（葉）翔太(大阪大学レーザー科学研究所)、韓燕麗(東京大学総合文化研究科)、田中仁(大阪大学法学研究科)、谷川真一(神戸大学国際文化学研究科)、中村元哉(東京大学教養学部)、丸田孝志(広島大学総合科学研究科)、水羽　信男(広島大学総合科学研究科)、林礼釗(大阪大学人間科学研究科)、アルス(大阪大学人文学研究科)、鄭成(兵庫県立大・環境人間学研究科)、郭夢垚(神奈川大学外国語学研究科)、蒲　豊彦(京都橘大学)、菊池一隆(愛知学院大学文学部)、小堀慎悟(名古屋外国語大学)、島田美和(慶応大学法学部)、周俊(同志社大学グローバルスタディーズ研究科)、瀬戸宏(摂南大学外国語学部)、瀬辺啓子(佛教大学文学部)、土肥歩(同志社大学文学部)、三田剛史(明治大学商学部)、宮内肇(立命館大学文学部)、森川裕貫(関西学院大学文学部)、山崎岳(奈良大学文学部)、楊韜(佛教大学文学部)、和田英男(近畿大学)、郭まいか(日本学術振興会)、団陽子(日本学術振興会)、範麗雅(語学専門学校勤務)、呉世平(復旦大歴史学系)、鄒燦(中国南開大歴史学院)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数（必須）	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生
人文研所属		14	8	6	6	3	148	90	82	87	40
（内女性）		(3)	(3)	(3)	(3)	(1)	(47)	(47)	(47)	(47)	(16)
京大内（人文研を除く）		19	11	14	14	13	145	66	110	110	98
（内女性）		(10)	(8)	(8)	(8)	(8)	(61)	(38)	(48)	(48)	(48)
国立大学	10	15	6	7	6	0	63	43	46	27	0
（内女性）		(5)	(4)	(4)	(4)	(0)	(18)	(17)	(17)	(17)	(0)
公立大学	1	1	1	0	0	0	5	5	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
私立大学	11	11	3	5	4	2	79	9	45	33	8
（内女性）		(2)	(1)	(0)	(0)	(0)	(2)	(1)	(0)	(0)	(0)
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
独立行政法人等公的研究機関	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0
（内女性）		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3)	(0)	(0)	(0)	(0)
民間機関	2	2	2	0	0	0	11	11	0	0	0
（内女性）		(2)	(2)	(0)	(0)	(0)	(11)	(11)	(0)	(0)	(0)
外国機関	11	11	10	5	5	4	72	71	48	48	47
（内女性）		(3)	(3)	(1)	(1)	(1)	(30)	(30)	(16)	(16)	(16)
その他　※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
計	36	74	41	37	35	22	526	295	331	305	193
		(26)	(21)	(16)	(16)	(10)	(172)	(144)	(128)	(128)	(80)
※「その他」の区分受入がある場合具体的な所属等名称を記載：例）高校教員 無所属の場合は機関数０とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数		うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文（単著・共著）	15		6	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文（共著）	0		0	
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	3		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文（共著）	0		0	
⑤国外の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名（必須）	掲載論文数（必須）	掲載年月日（必須）	論文名（必須）	発表者名（必須）
1	近代中国研究入門	1	R4.4	第五章　政治史	石川禎浩
2	中国研究月報	1	R4.6	高橋伸夫著『中国共産党の歴史』書評	石川禎浩
3	中国現代史研究	1	R4.11	大沢武彦氏の書評に対するリプライ	石川禎浩
4	岩波講座世界歴史 17　近代アジアの動態 19 世紀	1	R4.7	清朝の開港の歴史的位相	村上衛
5	社会経済史学	1	R5.2	書評：神田さやこ著『塩とインド――市場・商人・イギリス東インド会社	村上衛
6	世界・啓蒙・在地：台湾文化協会百年紀念（上）	1	R5.2	李応章的摩托車：二林街的経済発展和蔗農組合	都留俊太郎
7	歴史学研究	1	R5.8	書評：堀内義隆著『緑の工業化：台湾経済の歴史的起源』	都留俊太郎
8	近畿大学国際学部紀要	1	R5.7	佐佐木竹苞楼《宋本鑒定雑記》考釈	瞿艶丹
9	中国出版史研究	1	R4.10	影印《大清歴朝実録》史事雑考	瞿艶丹
10	中国典籍与文化論叢	1	R4.12	「国家図書館蔵銭儀吉致銭泰吉書札箋釈	瞿艶丹
11	アジア遊学	1	R4.5	広東から来た前衛画家：1930 年代の東京における李仲生の画業について	呉孟晋
12	中国年鑑 2022	1	R4.5	（動向）美術	呉孟晋
13	学叢	1	R4.6	森琴石ゆかりの中国書画および書簡資料について：来舶清人との交流を中心に	呉孟晋

14	旅行的筆墨：王済遠的絵画芸術	1	R4.9	王済遠的油画、水彩画和水墨画：従日本交流談起	呉孟晋
15	水墨，結束了嗎？：再現筆墨精神国際研討会論文集	1	R5.2	継承溥儒筆墨的日本画家：論伊藤紫虹的抽象水墨画	呉孟晋
16	Living and Working in Wartime China	1	R4.7	Regulation of Time and Folk Customs in North China during the Sino-Japanese War	丸田孝志
17	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	1	R5.3	中国社会転換期における環境NGO と環境ガバナンスに関する再考	冷昕媛・林礼釗・三好恵真子
18	京都メディア史研究年報	1	R4.4	中華民国期の出版データの推計：「民国図書数拠庫」をもとに	比護遥
19	新華文摘	1	R4.4	組織的血脈：党内交通研究的再検視	周俊
20	現代中国研究	1	R4.11	永遠の秘密主義ー現代中国における秘密保持制度の起源とその実態	周俊
21	中国研究論叢	1	R5.2	雑誌『経済研究』における「過渡期」と「経済法則」をめぐる論争	三田剛史
22	湖北美术学院学报	1	R4.4	东方艺术之旅：试论劳伦斯・宾雍 1929—1930 年的亚洲之行	範麗雅
23	鹿島美術研究年報	1	R4.11	20 世紀初頭の日本における中国人所蔵の元明清絵画の評価	範麗雅
24	湖北美术学院学报	1	R5.3	从《国华》和中日两国学者、收藏家的日记与书信看中国书画名迹在海外的传播及其意义	範麗雅
25	和解のための新たな歴史学：方法と構想	1	R4.5	心の和解における中国の歴史家の役割	鄭成
26	超大国・中国のゆくえ——文明観と歴史認識	1	R4.8	第一章　変転する文明観	中村元哉

27	岩波講座世界歴史 20：二つの大戦と帝国主義 I 20 世紀前半	1	R4.9	中華民国における民主主義の模索	中村元哉
28	Chinese Studies in History	1	R4.10	Modern Chinese History in Japan: The Entanglement of Constitutional Government and Revolution	中村元哉
29	史学雑誌	1	R4.10	書評　金子肇『近代中国の国会と憲政――議会専制の系譜』	中村元哉
30	アジア経済	1	R4.12	現代中国における中央指導者の地方視察とその政治的意義（1949-1955）	周俊
31	中国研究月報	1	R5.3	中国共産党の組織における情報伝達（1948-1954）	周俊
32	京都メディア史研究年報	1	R4.4	漢字の読み書きから中国語のデジタル・リテラシーへ	温秋穎
33	メディア研究	1	R4.8	日本放送協会「支那語講座」のメディア史（1931-1941）	温秋穎
34	メディア史研究	1	R5.2	NHK ラジオ・テレビ「中国語講座」の戦後史	温秋穎
35	冷戦アジアと華僑華人	1	R5.3	中華民国派華僑組織の形成と台湾外省人（1950-60 年代）	岡野翔太
36	言語文化研究	1	R5.3	エスノグラファーは「書くことが躊躇われること」をどう記述し得るか	岡野翔太
37	この 50 年の歩みを共に考える：それぞれの出来事をいま振り返る意味	1	R5.3	日華断交・日中国交正常化後の在日華僑組織と「二つの中国」問題	岡野翔太
38	アジア社会文化研究	1	R5.3	ある「民族資産階級」と上海の社会主義改造（1949～1965）	水羽信男

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名
1	中国共産党百年史	石川禎浩著、瞿艶丹訳	R5.1	台湾商務印書館
2	中国国民党特務と抗日戦争	菊池一隆	R4.10	汲古書院
3	近代中国の国家主義と軍国民主義	小野寺史郎	R5.1	晃洋書房
4	概説　中華圏の戦後史	中村元哉、森川裕貫、関智英、家永真幸	R4.10	東京大学出版会

12. 本年度博士学位を取得した学生の数

	人数
博士学位を取得した学生の数	**2**

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

14. 次年度の研究実施計画
本年度同様、隔週金曜午後に研究班例会を開催することを中心に活動を進める。新型コロナウィルスの感染拡大はいまだ終息していないため、ハイフレックス方式による開催の見通しである。次年度が研究班の最終年度にあたるため、研究のとりまとめにかかる。具体的には、研究班の成果物となる論文集への投稿予定者を中心に、輪番で報告をおこない、論文のブラッシュアップを目指す。各自の研究をより広い学術的脈絡に位置づけるために、隣接分野の専門研究者にコメンテイターの担当を依頼する。コロナ禍のもとにあって、研究活動の維持には様々な困難が予想されるが、昨年度に導入した新たな会議システムを積極的に活用しながら、ますます活発な議論がおこなわれるようにする。

15. 次年度の経費
なし

16. 研究成果公表計画および今後の展開等
研究班で刊行する論文集にかんするスケジュールは下記の通りとなっている。
　2023 年 9 月末　論文提出期限

2023 年 10 月末　論文査読（研究班内）終了

2023 年 11 月末　論文（改稿）仕上げ提出

順調にいけば 2024 年 3-6 月、遅くとも 2024 年内の刊行を目指す。